

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

2017年9月号

はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

発行編集人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
代表理事 小久保 正

発行所

日本クリスチャン・アカデミー
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第587号

人類で初めて宇宙空間に出て地球を眺めたのは、旧ソ連時代の宇宙飛行士ガガーリンで、1961年4月12日という事になった。当時の首相フルシチョフは、「もし宇宙で神様に会っても、そのことは口外するな」といった。他方、ロシア正教モスクワ総主教は、「もし、宇宙で神の姿が見えなかったとしても、そのことは自分の胸だけに収めておくように」といったという小話が残っている。天国が宇宙にあると思われていた。

アメリカは、旧ソ連の宇宙開発計画から数年遅れていたが、地球資源探査衛星(後に Landsat 1号)を1972年7月に打ち上げている。1シーンを185km×185kmの枠組で、地球全体を18日間かけて撮影する巨大システムで、地球全体の膨大な画像データを永遠に蓄積する仕組みをつくっている。

このプロジェクトは、Landsat 2, 3, 4, ..., 8号、と現在まで続いている。この分野はリモートセンシングと定義されて、この45年間でさまざまな技術進歩があった。当初は1シーンの画像データが

2400フィートのマグネティックテープ(MT)で記録され、大型計算機のみでしか処理できず、1シーンの入手コストが約40万円だった。2000年を境にして、これらの全世界の画像データが、最新の Landsat 8号も含めて、アメリカ地質調査局(USGS)等のホームページから無料で配布、地球上のどの

地域のデータでも数時間で入手できるようになった。また、パソコンの高性能化と処理ソフトの進歩で、世界の農耕地の抽出といったような目的に応じた画像が手短に得られるようになった。Google Earth から見られる地図画像は、その1つの典型例である。2000年以後、地上で1m以下の細かさの画像も入

600 km 上空から地球をみれば

関西セミナーハウス活動センター運営委員

鳥井 清司



高データを測定して、インターネットで配布している。この標高データの上に衛星画像データを重ねれば、立体的の景観画像を作り出すことができる。研究室の中に居ながら、パソコンの画面上で世界中の景色を見ることが出来る。

ハーバード大のカール・スタインニツ教授は、この景観構造の考え方を地域の土地利用計画に導入した先駆者である。地方行政の開発計画には、景観構造をベースにした危機管理のシナリオが必須である

との講演を聞き、新しい考え方が印象に残った。

リモートセンシングは、例えば、赤色と近赤外の画像を組み合わせることで、地球上での森林の拡がりや農作物の生育状況も把握できる。また、長年にわたりデータが蓄積されているので、経年の変化も見る事が出来る。600 km 上空というのは、地球の半径6,400 km、その約10分の1、ほぼ東京―岡山間の距離である。このような衛星画像データやGPSデータ、地表標高データがまとめて利用できるようになったのは2005年ころからである。

私は本来の専門が、灌漑分野であったため、世界中の多くの農業地域を歩いてきた。10万ヘクタール(10⁶ha)、あるいはそれ以上の巨大な灌漑農地が多く、国で開発されているが、まだまだ粗放的な農業が営まれている。

今、インターネットを参照すれば、8億人弱の人が飢餓に苦しんでいる。上述のような宇宙からの目を利用すれば、飢餓問題を解決する一助になるのではないかと考えている。

(元京都大学東南アジア研究センター教授)

関東活動センター

●2017年度 関東フォーラム 宗教対話V
「礼拝のためのボイストレーニング」
(全5回)

元声優、日本キリスト教
団経堂緑園教会担任教師

友野富美子さん

2017年6月5日(月)～7月3日(月)

会場 日本聖書神学校



撮影・中外日報山縣記者

「礼拝のためのボイストレーニング」というのがこの講座に付けられた名称ですが、「ボイストレーニング」そのものがその内容かといくと、そういうわけでもありません。ボイストレーニングというと、自分の声をよくする、大きくする、美しい声にする、というイメージがあるかもしれません。もちろんそれも大切なことです。けれどこの講座は、どちらかというところ「ボイストレーニング」の方ではなく、「礼拝のため

の」の方に重点が置かれてい

るということが出来ます。「礼拝のための」声を考え、調え、実践してみる、というのがこの講座の内容です。礼拝奉仕者である司式者、説教者が、礼拝に仕えるための声を発しているかどうか、確認し、意識的にそれを訓練する、というものです。

司式者は、礼拝を司り、神に祈りを捧げ、会衆に神の言葉である聖書を伝えるという役割が与えられています。もちろん教会によっては祈禱や聖書朗読は教職がしているか

もしれませんが、いずれにしても、司式者や説教者は会衆が礼拝を捧げるために適切な言葉を発しなければなりません。しかし、その言葉がきちんと会衆に届いているか、そのことに心が砕かれた

ことはあまりなかったのではないのでしょうか。たとえば招詞が、会衆を礼拝に招く神の言葉として語られていたかどうか。讃美歌の番号が、一番うしろの席にいる方にも最前列に座っている方にも、耳が少々聞こえづらくなっている方にも、すべての人に配慮された言葉として発せられていたかどうか。そして、大切な聖書朗読が神の言葉の朗読としてしっかりと準備され、会衆の心に伝えられたかどうか。どんなひとりも「置いてけぼり」にせず、そこに集う皆が礼拝をお捧げるために、自分の言葉が届いているかどうか、司式者や説教者は確認しながら進めていたでしょうか。

説教者も司式者も、原稿までは用意してもその先は「ふっつけ本番」というのが実情だったように思います。けれど、それでは神さまにお捧げるものとしては不十分ですし、会衆にも不親切です。礼拝で用いられる言葉への意識を高くし、よく準備し、トレーニングされた声を豊かに用いることで、もっと礼拝がいきいきし、引き締まった

ものになると考えられます。講座では、まず「からだ」意識「呼吸」「発声」についての基礎訓練を行います。自分の体がどのような状態にあるか知り、緊張をほぐしていきま

す。ちよつとしたストレッチでからだに気持ちよくなること、声をのびやかにします。ふだんなかなか自分のからだに触れたり、からだの声を聴いて気持ちよくしてあげられるようなことはないかもしれませんが、礼拝前に少しだけ、自分のからだをかえりみてあげることも必要です。

からだのあとは、意識の改革です。「礼拝のため」に用いられる言葉は、自分のための言葉ではありません。神さまと人に仕えるために発する、福音を届けるために口から放たれる、そのことを意識するだけで、声は調えられていきます。意識が声をつくるのです。このことに気づくと、

声だけでなく、語り方が変わってきます。ただのアナウンスや原稿の棒読みというわけにはいかなくなるのです。ここからが講座の本番です。聖書朗読や説教など、実際に即したトレーニングを個

別にやっています。これは一度の訓練で終わり、というようなことでは収まりません。継続して声と言葉を意識する訓練を続けていけたらと思います。

説教を語る教職の方々、司式をなさる信徒の方々十名程が、礼拝をよりよくしていきたい、礼拝で用いられる自分の声をよくしたいと望んで参加してくださいました。皆さんの声と意識が変化していたことを、参加者の皆さんで喜んで、楽しい講座となりました。

(報告 友野富美子)



撮影・中外日報山縣記者

関西セミナーハウス活動センター

●2017年度「お茶のこころと宗教のこころ―」
「聖書をいっしょに読みましょう」(全8回)

座長 日本基督教団牧師 榎本 栄次さん
2017年4月6日(木)〜12月7日(木)



自然に囲まれた静かな環境で、ゆっくりと、聖書を主観的に読み、それを分かち合いながら聖書の中に自分を発見する試みである。途中、毎回季節の移ろいを楽しみながら、茶室で抹茶を味わい、俳句を詠む。

第1回は、マタイによる福音書 4章1―11節を取り上げ、受難週(レント)の期間にちなんで「苦しみ」と「誘惑」について考えた。第2回は、「信仰は勝利することであり、勝利するとはキリスト



に隠れること」という話で始まり、コリント信徒への手紙一、5章「古いパン種をきれいに取り除けなさい」から学びあった。第3回は、ペンテコステを前にイエスの弟子たちの様子を、また、コリント信徒への手紙からこの世の課題と信仰について学んだ。第4回は、有機的信仰について考えた。ヨハネの「知る」と

いう概念について考えた。コリント一、7章ではパウロの結婚観や、男女の関係に言及し、また人間として今あるままにしていることが奨められている。その中には現代人には受け入れ難い内容がある。この

●2017年度「開発教育セミナー」第一回協力プログラム
「開発教育入門セミナー」
Think Globally Act Locally
「足もと」と「世界」をつなぐ

主催 (独)国際協力機構 関西国際センター
(JICA 関西) (公財)京都市国際交流協会
会場 京都市国際交流会館
2017年7月9日(日)



毎年初夏の恒例になっていた「開発教育入門セミナー」(主催: JICA 関西、京都市国際交流協会)が7月9日(日)に実施された。50名募集の

ころ約60名の参加者があり、会場ははなしあい、学びあいの熱気で包まれた。最初に国連「持続可能な開発目標(SDGs)」について知り、身近なごとと関連づけて理解する全体会を行った。その後、「食のタネあかし」食料への権利を考える、「豊かさ」と開発、「スマホの真実」JICA 教師海外研修2016 ネパール実践授業報告会」の4つのテーマで分科会をもった。「スマホの真実」紛争鉱物と環境破壊とのつながり」で

は、NPO 法人アジア太平洋資料センター(PARC)が2016年に制作した同名のDVDを視聴し、話し合いながら深めた後に、見えてきた事実を書き出すワークを行った。すると環境人権、紛争、貧困、格差、ジェンダー、生産と消費など、SDGs が掲げる解決すべき17の目標のすべてに関連しており、それらが相互につながっていることが図示された。最後に、SDGs のスローガンである「誰ひとり取り残さない」を実現するために、ひとりができることから大きなアクションにつなげていくことと、1つの課題解決が別の課題への波及効果を生むことをイメージしながら、今後とも取り組んでいきたいと確認しあった。



プログラム案内

◆**関東活動センター**

■**聖書を読む講座I**

「いのちをかけてのメッセージ『イエスの譬え話』に聴く」(全9回)

講師：山口 里子さん(日本フェミニスト神学・宣教センター共同ディレクター)

日時：2017年4月～2018年1月
第2火曜 18:30～20:00
◎10月10日、◎11月14日

会場：早稲田奉仕園スコットホール
参加費：1,200円/学生500円
テキスト：『イエスの譬え話2』

新教出版社

共催：早稲田奉仕園

■**2017年度関東フォーラム 宗教対話I**

「日本キリスト教史を読む」第I期(明治篇全7回)

講師：戒能 信生さん(日本基督教団千代田教会牧師)

第5回「内村鑑三の生涯とその贖罪信仰」

日時：10月12日(木)14:00～16:00

第6回「新渡戸稲造の生涯とその人格的信仰」

日時：11月9日(木)14:00～16:00

会場：日本キリスト教会館1階

参加費：1回500円

■**2017年度関東フォーラム 宗教対話III**

「編集者がその本音を語る」

第2回「中川和夫さんに聞くー今、構造的変動の中にある出版界の現状、その中で編集者の役割とは？」

講師：中川 和夫さん(元岩波書店編集部、現在ぶねうま舎)

財団本部 <http://www.academy-nippon.com>
関東活動センター <http://www.academy-tokyo.com>
関西セミナーハウス <http://www.kansai-seminarhouse.com/>
関西セミナーハウス活動センター <http://www.academy-kansai.org>

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー

代表理事 小久保 正

本部事務局

〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
TEL 075-711-2147
FAX 075-701-5256

関東活動センター

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館1F
TEL 03-3207-6198
E-mail:info@academy-tokyo.com

関西セミナーハウス/

関西セミナーハウス活動センター
〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
FAX 075-701-5256

関西セミナーハウス

TEL 075-711-2115
E-mail:info@kansai-seminarhouse.com

関西セミナーハウス活動センター

TEL 075-711-2117
E-mail:office@academy-kansai.org

社長)

日時：10月20日(金)18:30～20:30
会場：カフェ・エクレシア(東京都台東区蔵前2-7-6 TEL 03-3863-2338)

参加費：1,500円(ワンドリンク付)
定員：20名

◆**関西セミナーハウス**

■**第5回「修学院きらら山荘 薪能」**

演目：能「鉄輪」
出演：林宗一郎さん他
日時：2017年10月6日(金)
17:00～18:30(開場16:15)

会場：関西セミナーハウス能舞台「豊饗殿」

鑑賞料：4,000円 定員：100名

協力：林能楽会

■**月釜 清心会**

日時：2017年10月8日(日)、11月12日(日)
9:00～15:00受付(1、8月を除く年10回)

於：関西セミナーハウス
年会費：5,000円、臨時会費1,000円

◆**関西セミナーハウス活動センター**

■**2017年度お茶のころと宗教のころII**

「聖書をいっしょに読みましょう」(全8回)

座長：榎本 栄次さん(日本基督教団牧師)

日時：2017年4月～12月
◎10月5日(木)、◎11月9日(休)
13:30～16:30

会場：関西セミナーハウス

参加費：1回1,500円 学生500円

(抹茶含む) 定員：20名

■**2017年度修学院フォーラム「社会」**

第1回「宗教と戦争を考える〈3〉キリスト教はなぜ戦争について容認するようになったのか？」

講師：土井 健司さん(関西学院大学神学部教授)

日時：2017年10月7日(土)
13:30～17:30

第2回「宗教と戦争を考える〈4〉内村鑑三の戦争観」

講師：岩野 祐介さん(関西学院大学神学部教授)

日時：2017年11月11日(土)
13:30～17:30

会場：関西セミナーハウス
参加費：一般2,300円、学生1,000円(コーヒー込)

■**2017年度開発教育セミナー**

第4回「日本は“死の商人”になるのか?～軍事と民生の境界線」

講師：杉原 浩司さん(武器輸出反対ネットワーク代表)

日時：2017年10月14日(土)
16:00～15日(日)12:00

第5回「沖縄のまなざし、沖縄へのまなざし～メディアの報道と私たち」

講師：安田 浩一さん(ジャーナリスト)

日時：2017年11月18日(土)
16:00～19日(日)12:00

会場：関西セミナーハウス

参加費：10,500円(1泊2食込)

賛助会費・寄付金報告

2017年6月1日～6月30日

(順不同・敬称略)

◆**財団本部**

寄付金

日本基督教団早稲田教会 25,000

◆**関東活動センター**

賛助会費

西川 嗣夫 10,000
森野 善右衛門 3,000
吉田 豊 3,000
平井 文則 5,000
平井 裕美子 5,000
島田 治夫 2,500

寄付金

岡田 春美 2,000

◆**神学生交流プログラム寄付金**

関田 寛雄 58,400
松原 千里 3,000
石田 学 10,000

◆**関西セミナーハウス**

寄付金

島田 恒 5,000
神保 正男 10,000
株式会社 京都スタッフ 10,000
株式会社 ビーテック 30,000
山内 博 10,000
黒岩 裕二 10,000

株式会社 柴橋商会 京都支店 10,000
株式会社 藤木工務店 京都支店 10,000
株式会社 新経営サービス 30,000
ワケンホールディングス株式会社 50,000
株式会社 アイウィル 10,000
廣田 吉久 10,000
宮崎 達雄 3,000

◆**関西セミナーハウス活動センター**

賛助会費

新宗連大阪事務所 生田茂夫 5,000
高寺 幸子 5,000
間瀬 啓允 5,000
大谷 光真 5,000
松田 光代 5,000
高橋 壮二 5,000
松本 嘉一 5,000
竹中 百合子 5,000
明 5,000
網野 俊賢 5,000

寄付金

島田 恒 10,000
安形 日出 10,000
中上 和子 100,000
加太アシュラム 5,000
平田 哲 5,000

以上、感謝をもってご報告申し上げます。